

## 研究計画概要

助成年度・種別	2020年度 若手研究助成
研究者	今井 聖
所属	立教大学
研究テーマ	子どもの自死をめぐる事実認定とその補償に関する研究
研究計画概要	<p>本研究の目的は、現代日本において子どもの自死が発生した場合にいかなる事実認定のプロセスを経ることになっているのか、またその補償はどのように制度化され、いかに運用されているのかを、明らかにすることである。</p> <p>近年、自殺者数は減少傾向にある中で、10代だけは自殺死亡率が増加傾向にある。文部科学省の通知文書「児童生徒の自殺予防について」(2019年2月)においても、「自殺した児童生徒数は高止まりしている状況」として、子どもの自殺対策が喫緊の課題とされている。とりわけ中高生の自死をめぐるのは、2011年の滋賀県大津市での中学生自殺事件をきっかけに「いじめ自殺」が再び社会問題化し、政策的・制度的変化が見られる。そうした変化が、子どもの自殺事件における事実認定や責任帰属のポリティクスにいかに作用しているのかを、社会的に検証する必要がある。</p> <p>以上を踏まえて本研究では、第三者調査委員会の制度化の過程とこれまでの事例を検証し、日本スポーツ振興センターの災害共済給付制度にもとづいて支給される災害共済給付金の支給に関する変遷を描出する作業から、子どもの自死をめぐる実践の有り様を明らかにする。</p>
選考委員からのコメント	<p>子どもの自死が発生した場合、どのような事実認定の社会的過程を経ることになるのか。また自死への補償はどのように制度化され運用されているのか。本研究の課題は明瞭で社会的意義は大きく、研究の準備状況は良好である。第三者委員会制度の制度化過程とその成果について、知見の生産が期待できる。</p>